

視察してきました

文化施設と町並みを 生かしたまちづくり を視察

<四季文化館みの〜れ>

小美玉市は、平成18年3月27日に2町1村（東茨城郡小川町・美野里町、新治郡玉里村）の合併により誕生し、市名は各町村の頭文字をとっています。面積140.21km²、人口約5万3,000人。茨城県のほぼ中央部に位置し、常磐自動車道へのアクセスもよく企業進出が相次ぎ、宅地整備も進んでいます。東部には航空自衛隊百里基地があり、今後の民間共有化により、さまざまな波及効果が期待されています。

今回視察した四季文化館「みの〜れ」は、旧美野里町時代に、住民と行政・企業のパートナーシップによる協働作業を重視し、「住民のための住民による文化活動」の実践を目指して、平成14年11月に開館しました。

みの〜れは森のホールと風のホールと名づけられた二つのホールを中心をなし、森のホールは音楽を中心とした多目的ホールで、600席と322席の2パターンで利用が可能、風のホールは可変席（300席）の多機能ホールで、可動パネルにより3室に仕切れ、作品の展示や会議など多目的に利用でき、また、中庭（風の広場）と一体的な利用も可能となっています。

両ホールとも年間稼働率75%を超え、開館まで約6年間という長い歳月をかけ、住民と行政が出し合った知恵が生かされています。また、開館時から「みの〜れ支援隊」という住民ボランティアが館の運営を支え、単なるハコモノではなく、市民の文化を高める拠点施設として大きな成果を挙げています。

<香取市佐原の町並み>

午後は、千葉県香取市にある佐原重要伝統的建造物群保存地区を視察しました。香取市は平成18年3月27日、佐原市、小見川町、山田町、栗

視察日：平成19年9月21日
視察先：四季文化館みの〜れ（茨城県小美玉市）
佐原重要伝統的建造物群保存地区（千葉県香取市）
視察者：議会議員23名
目的：多目的施設の整備、町並みを生かしたまちづくり

源町の1市3町が合併して誕生しました。面積は262.31km²、人口約8万7,000人。利根川を挟んで茨城県と接しています。

今回視察した佐原地区は、江戸時代に水運で発展した町で、小野川沿いにはその当時の繁栄を伝える蔵づくりの町並みが整備されています。町並み保存は、昭和63年、東京三菱銀行佐原支店のれんがづくりの建物が取り壊される計画の際、住民から保存運動が生まれました。住民たちは勉強会・検討会等を重ね、平成3年には住民団体「小野川と佐原の町並みを考える会」が発足、そのような姿はやがて行政を動かし、平成6年に市が佐原市歴史的景観条例を制定、そして平成8年12月に関東地方初の重伝建地区に選定されました。

重伝建地区選定後、建物の修理・修景が進められ、また、あわせて小野川沿いの環境整備も進んできたことにより、落ち着いた町並みが形成されています。町並みを見学に来る観光客も増加し、経済波及効果にもつながっています。

<視察を振り返って>

これらの事例からも分かるように、これからのまちづくりの主役は住民の皆さんです。

みの〜れにおいては、住民のアイデアが十二分に生かされ、文化活動の拠点として愛着のある施設が実現しました。また、佐原地区では、住民みずから町並み保存を呼びかけることにより、住んでいる人たちが誇りを感じるまちづくりを実現しました。

桜川市においても住民主役・行政支援による自治の確立を目指して、住民と行政が一体となったまちづくりへの意識改革が求められていくのではないのでしょうか。



平成19年
第1回臨時会
(10月2日)

市立大和中学校 改築工事請負契約を可決

新校舎は、平成20年12月20日までに完成予定です。完成後、冬休み期間中に新校舎へ引っ越しを行い、生徒は3学期を新しい校舎で迎えられる予定です。（左：完成イメージ）

10月2日、平成19年第1回桜川市議会臨時会が開かれ、市立大和中学校の改築工事請負契約について慎重な審議がなされた結果、全会一致で可決しました。

仮契約までの経過

(別表)

平成19年8月31日…公告（掲示板）、新聞公告、インターネット公告

<公告内容>

条件付き一般競争入札（総合評定値1,200点以上、単体）
予定価格……11億1,580万5,000円（税抜き）
工 期……契約締結日の翌日から平成20年12月20日まで

8月31日～9月26日…設計図書の閲覧または貸与
8月31日～9月14日…入札参加申請受付
9月20日………入札参加資格確認
9月28日………入札

<入札結果>

6社による入札により「株木建設(株)」が9億2,100万円で落札
入札参加業者…株木建設(株)、りんかい日産建設(株)、佐田建設(株)、三ツ和総合建設業共同組合、(株)銭高組、(株)奥村組

市立大和中学校改築工事の概要

校舎総床面積……4,125.69 m²
建築工事………本体工事（校舎）、昇降設備工事（エレベーター）
灯油・ボンベ庫工事
電気設備工事……屋外設備工事（変電設備・自転車置き場電灯・監視カメラ等）
屋内設備工事（照明器具・電話設備・PC配線・火災報知器等）
機械設備工事……給排水衛生設備工事（屋内外給水設備・屋内外排水設備等）
空気調和設備工事（冷暖房機・換気設備等）
外構工事………自転車置き場工事、構内設備工事（舗装工事等）

なお、既設校舎解体工事（平成21年1月～3月）は別発注となります。

市議会では、議会だより第八号でお知らせしたように、特例債事業については四常任委員会合同委員会にて、桜川市の発展につながるよう事業の進捗等をしっかり確認してまいります。

市議会では、議会だより第八号でお知らせしたように、特例債事業については四常任委員会合同委員会にて、桜川市の発展につながるよう事業の進捗等をしっかり確認してまいります。

市立大和中学校改築工事は上記の臨時会記事でも紹介したように、本年十月より工事が始まり、来年十二月には完成する見込みとなっています。昨年度から始まっている県道つくば益子線の整備事業（本木バイパス）については、本年度も用地測量と説明会を実施していくとのことです。

真壁地区の多目的複合施設については、本年九月より建設準備検討会を設置して協議を重ね、十二月には基本設計を委託する予定になっています。

合併特例債事業の
進捗事業について

会議に先立ち、中田市長から「桜川市となって初めての大きな事業である市立大和中学校改築工事は、どの学校にも負けない立派な学校を、日本一優秀な業者につくってもらうことを基本として進めてまいりました」とあいさつがありました。その後、総務部長から仮契約までの経過について説明がありました。（別表のとおり）

この説明に対し、統合問題に関連した将来の生徒数の推移、工事内容、事業費の内訳、最低制限価格と落札価格の公表、指名停止業者と入札申請業者との関連性等について、6名の議員から質疑がありました。特に、発注者が決定した最低制限価格と落札価格が偶然にも同額でしたが、結果として2億円弱のコスト削減となりました。